

『夢をかなえるゾウ』 水野敬也 著.

飛鳥新社, 2007.8.

これはインドの神であるガネーシャとともに、今の自分を変えたいと思っている主人公が様々な課題を遂行していくという成長物語で、自己啓発本です。自己啓発本という硬いイメージがありますが、関西弁を話すガネーシャが非常に愛らしく、読書嫌いの人でも楽しめます。ガネーシャが求めていく毎日の課題は例えば靴を磨く、コンビニでお釣りを募金するなど、本当にそれで変わるのかと疑問に思うものばかりですが、実に的を射たもので、読んだその日から取り組めるのです。



一般書架
913.6
ミズノ
1

あなたもこの本の世界で主人公と一緒に成長していきませんか？

【木村友香さん】(大阪総合保育大学 児童保育学科 3回生)

図書館で“地震”が起きたら

1. **本棚からすぐに離れてください。**
2. ゆれが収まるまで、**落下物に気をつけてください。**
3. **カウンター前にいてください。**あわてて外に出ないで！



本の落下に注意！

開館日程

2019年 4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2019年 5月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 開館時間 9:00-19:00
- 開館時間 10:00-18:00
- 開館時間 9:00-13:00
- 開館時間 9:00-15:00
- 休館
- 開館時間 10:00-15:00

その他臨時休館・開館時間変更は、その都度、ホームページや掲示等で連絡します。閉館中の図書の返却は、返却ボックスへ。



(編集責任者：M.K.)



らいぶらりー ニュースレター

大学図書館へようこそ



おすすめ本の展示

蔵書検索用PC

紙芝居・絵本

自動貸出機



図書館の検索サイト



入退館ゲート

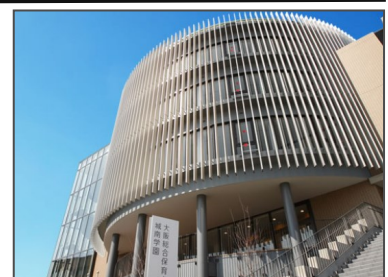
大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館

〒546-0021

大阪市東住吉区照が丘矢田2-23-13 第2学舎 2階

電話：06-6702-9820 (直通) FAX:06-6702-9928 (直通)

URL：<http://www.jonan.jp/biblio>



☆図書館は、利用者と、資料・情報をつなぎます。

総合保育研究所のおススメ本 📖 幼稚園教諭・保育士を考える人へ

『幼稚園と保育所のいいところを見つめなおす ：こども園の在り方を軸にして』

大阪総合保育大学総合保育研究所幼保一体化プロジェクト
編著． ふうろう出版，2018.11.（総合保育双書；5）

本書はこれからの乳幼児保育・教育の在り方について問題を提起しています。保・幼・こども園の現場で直面している“生の声”が整理されているのが特徴です。そこには、要領や指針の改訂（改定）で揺れ動く現場の努力や苦悩が表れています。

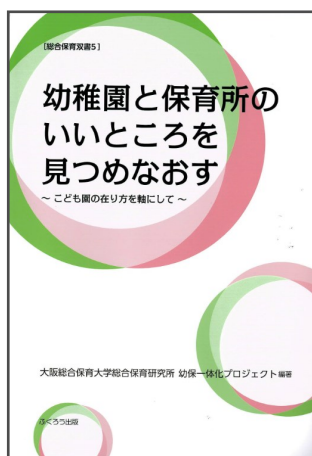
また本書は、保育・教育を語源から問い直すこと、乳児保育の視点、先駆的な取り組みを行っている自治体の紹介、様々な見地からの提案が織り込まれた構成となっています。保育・教育の二項対立から、それらを肯定的に統合・融合していく発想は、新たな幼児教育と保育の再構築の視点となり得るでしょう。

大阪総合保育大学 総合保育研究所 とは

保育に関する理論と実践を融合した総合的研究を推進し、その成果を社会に発信して、保育の資質向上に寄与することを目的とした研究所。現在8つのプロジェクトが進行中。

[東城大輔 先生]（大阪総合保育大学 児童保育学部）

[自己紹介] 専門は幼児教育学。総合保育研究所事務局員として「保育の指導法研究（プロジェクト2）」や幼保一体化プロジェクトを前身とした「児童中心主義の功罪（プロジェクト3）」の事務運営を行っています。



一般書架

376.1
0
5

※大阪総合保育大学
総合保育研究所から
発行されている双書
シリーズ第5弾で
す。

「総合保育双書」
に興味のある方は
ホームページをご覧
ください。
[http://jonan.jp/
labo/
publication.html](http://jonan.jp/labo/publication.html)



宮崎先生のおススメ本 📖 命の重みを感じて、人生を進むために

『いのちのいろえんぴつ』

こやま峰子 文； 豊島加純 詩/絵； マイケル・グレイニエ
ツ 絵。 教育画劇，2016.3.



詩と絵を書かれた豊島加純さんは、十歳の時に脳腫瘍という病気にかかりました。体育の授業は、病気のために参加することができませんでしたが、何でも話せる小山内先生といろんな話をします。そして、先生からノートとエンピツをもらい、「十二色」という詩を書きました。それから、病気と闘いながらその色鉛筆で詩と絵を書きました。絵本の中で、加純さんは、同級生、先生、両親や妹とともに、日々を生き生きと過ごしています。

絵本

E
ト

人は、それぞれいろんな思いをもって、その人の人生を生きています。たとえ、病気になっても、障がいをもって、その人らしい暮らしを送ることは、尊重されるものでしょう。そして、死が訪れるまで、命の重みを感じながら生きていくのだと思います。

自分自身の命を大切に、それと同じように他者の命も大切にしながら、今を生きていってほしいと願っています。

「目立たない色もあるけれど、
みんな、がんばっている」
（「12色」から引用）

【宮崎恭子 先生】（大阪城南女子短期大学 人間福祉学科・専攻科）



[自己紹介] 短大の人間福祉学科及び専攻科に所属し、主に医療的知識の授業を受け持っています。介護福祉士は、様々な知識をもって、「その人のニーズ・幸せ」を考えることが役割です。そのために必要な知識です。興味を持って学べるようにと考えています。